



コミュニティスクール 浦里小学校だより

令和8年4月6日

希望の泉

上田市立浦里小学校 No.1 文責 藤森東

新学期
スタート

令和8年度スタート 進級おめでとうございます

令和8年度は、2年生から6年生が進級し、全校34名で始まりました。始業式の後、地域の方と共に、「浦里小をよくする会2026 ～みんなでわをつくろう～」を行い、交流を深めながら新しい一年間に夢をふくらめました。

保護者の皆様、地域の皆様には、日々多くのご協力、ご支援をいただき、心より感謝いたします。浦里小学校は、令和8年度に、開校154年目を迎えました。子どもたちの成長のために、皆様にお力添えをいただきますようお願いいたします。浦里小学校の学校教育目標「自分のよさを切り拓く子ども」の実現に向けて、職員一同、精一杯取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、新しく転任してきた教職員を紹介します。（順不同）

藤森 東	岡谷市立 湊小学校より（校長）
中村 愛弓	飯田市立 鼎小学校より
土田 美由紀	上田市立 真田中学校より
谷米 二三子	新規採用職員
依田 美和	上田市立 東小学校より

令和8年度 浦里小学校職員組織

校長	藤森 東	保健主事	北原 友里
教頭	白井 真希	事務主任	塚田 香絵
2年生担任	中村 愛弓	特別支援教育支援員	谷米 二三子
3年生担任	土田 美由紀	心の教育相談員	依田 美和
4年生担任	山極 美帆	学校司書	長尾 恵子
5年生担任	荒井 香代	庁務員	久保田 信一
6年生担任	緑川 信子	ALT	キクチ・ドナベル・アン
まなび学級担任	山本 順介	教員業務支援員	中沢 雅子
専科教員（算数）	金澤 清一	養護補助員	三浦 香子
専科教員（家庭）	山口 聡美		

★裏面もご覧ください

令和8年度 浦里小学校運営の方針(グランドデザインの一部を紹介します。)

<コミュニティ・スクール浦里小学校>

今年度、本校はコミュニティ・スクール浦里小学校としての第六期1年目、通算16年目を迎えます。

第一期は、「コミュニティ・スクール浦里小学校」としての「かたち」を形成してきました。第二期では、解決すべき課題の方向を探りつつ、充実・発展させてきました。第三期では、児童同士や児童と地域の主体的な「関わりあい」を大切にしてきました。第四期では、コロナ禍にあって可能なコミュニティ・スクールのあり方を模索してきました。第五期では、持続可能なコミュニティ・スクールのあり方などをテーマにして児童の減少、高齢化、教職員のワークライフバランスなどを考慮して取り組んできました。

第六期となる今期も「人は人を浴びて人になる」を合言葉に、引き続き子ども、教職員、保護者、地域のウェルビーイングを高めるコミュニティ・スクールのあり方などをテーマにして、主体的にもの・こと・人へ関わり、課題解決していく力をもつたくましい児童を育成すること、お助け隊の高齢化という課題を踏まえて、地域が活性化するようなあり方を模索すること、教職員のワークライフバランスを考えた働き方ができることを目指していかたと願っています。

1 学校目標 「自分のよさを切り拓く子ども」

「切り拓く」の主体は、子ども本人です。子ども本人が、自分自身をよりよい自分とするための努力を行うことを意味しています。そのための努力は、人間形成の初期である小学校時代には重要なことです。自分の人生(よさ、夢、願い)を切り拓くことは、人の役に立つ自分としての生き方につながります。そのために周囲の人々と共に育つことや何事にも本気で取り組み、豊かな発想力と創造力を発揮し、様々な人と関わり合って問題解決をしていくようなたくましい子どもの姿は、学校、保護者、地域、共通の願いでもあります。そのために、三者(教師・保護者・地域)は手を携え、学校づくりの当事者として主体的に関わっていきます。

2 具体目標

(1) 進んで勉強しよう

子どもたち一人一人の願い、学び方の特徴、興味・関心、学ぶ上での強みを捉え、少人数だからこそその強みを生かしていきたい。そのために、子どもが主体的に追究したくなる、単元を貫く『問い』が生まれるように、児童理解に基づいて事象の提示を工夫します。そして授業を通して得たものを、自分のことばで、語り、伝え、聞き取り、理解する。そんな振り返りの場面を設けたいと考えています。

(2) 思いやりのある人になろう

グローバル化が進み、様々な考え方や価値基準を有した人々との出会いが待っています。一人一人が自分との違いを認め合い、尊重し合いながら協働していくことが大切になってきています。

少人数のクラスでは、子ども同士の評価が固定化し、序列化しやすい傾向が見られます。地域の方や職員などいろいろな立場の大人が、一人一人の違いを大切に考え、良さを認め合う関係が育つように、人権感覚を磨き、モデルとなったり、必要な指導を行ったりしていきます。

(3) 丈夫な心と体を作ろう

アンケートによると本校の児童は、オンラインゲームやyoutube視聴など、他校と比べて接する時間が長い傾向にあります。それでも、学校では他学年の児童とも関わり、思う存分遊ぶ姿が見られます。また、本校では健康づくりへ向けて、朝のマラソンや体みがき運動など、授業時間以外にも継続的に体を動かす取り組みを、全校をあげて取り組んでいきたいと考えています。

(4) ふるさと(浦里)に学ぼう

当校の歴史は、地域の人々に支えられながら営まれてきた学社連携教育の歴史である。学校教育は絶えず、保護者並びに地域の方々の学校に寄せる熱い思いで満たされた環境の中で行われてきました。浦里小学校区は、数え切れないほど沢山の宝物=教材に囲まれているといえます。この「ふるさとからの学び」は、地域に生きる人々との絆を一層強く結びつけ、ここで育ったことやこの学校で学び合えたことが人間形成の基盤となるはずで、そして、ふるさとに学んだことは誇りとなり、苦しさや悲しさを乗り越える心の育成に繋がるものと信じています。

3 職員が子どもと共に考えていくことについて

職員が日々の教育活動の中で、意識していく内容です。キーワードとして、「やってみよう」と「それもいいね」を考えています。ぜひ、ご家庭・地域でも様々な場面で使っていただけますようお願いいたします。

研究テーマ

「他者とのつながりの中で『やってみよう』と

『それもいいね』が響き合う、浦里小の学び作り」

～『やってみよう』を生み出す学習過程の工夫と、安心できる『人間関係づくり』を通して～